



孫ターン農家

安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組む挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

自分より若い世代が憧れる 農業のカタチを模索中です

株式会社RABI 代表取締役社長

岡田 おかだ

裕樹さん ひろき

一緒に始めた仲間のひとりが今の妻です



<p>趣味</p> <p>休日は料理を楽しむことも。生地から作るピザやアップルパイ、チョコレートムースなど本格的。</p>	<p>おすすめスポット</p> <p>市外の友人が遊びに来た時に必ず連れて行くという神楽門前湯治村。温泉と夜叉うどんを満喫。</p>	<p>大切な家族</p> <p>現在は祖父母の家に祖母、母、岡田さん夫婦、ネコ、ウサギ、2匹のわんこが暮らす大家族。</p>
--	---	---

**農業はきつい、つらい、しんどい
そんなイメージを払拭したい**

高宮町にある母方の祖父母が農業を営んでいたこともあり、夏休みなどに訪れた時には手伝いをして、幼い頃から農業の楽しさを感じてきた岡田さん。将来の仕事にしたいと思い、高校は西条農業高校の園芸科に進学し、野菜や果物について学びました。これからの農業には情報系の知識も必要ではないかと考え、卒業後は近畿大学の情報システム工学科でプログラミングやIoTなどについても学習。その後、羽佐竹農場で2年間の研修期間を経て、2017年独立。高校生からの仲間2人とともに起業しました。現在は2.2haの畑で白ネギとレタスを育てています。岡田さんが目指すのは、これまでの働き詰めの農業からの脱却。「規模を大きくして収入を上げるのではなく、作業のムダを省いて効率化して3人でいかに利益を上げられるかを考えています。今後は、年間100日以上以上の休みをとる、1日8時間を超えて働かない、副業ができるなど、自由な時間を作ることができる農業を形にするのが夢。きつい、しんどい、つらいといったイメージを払拭したい」と力を込めます。未来の農業を見据えた岡田さんの胸の内には、「農業が若者の憧れる職業になってほしい」という思いがふれています。「自然を相手にする仕事なので難しさもありますが、そこが面白さでもある」とにこり。持続化可能な農業を目指して、岡田さんの挑戦はまだ続きます。

市民と市長の意見交流会を開催しました



Akitakata Meet-Up ~#市長と語ってみる~

10/28(水)・31(土)開催

いただいた質問と市長の回答を一部抜粋して紹介します。

Q 議場全てが見えるようにライブで配信するなど、議会の見える化が必要だと思います。どの議員が出席してどのような発言をしているか、市民には知る権利と必要性があると思います。

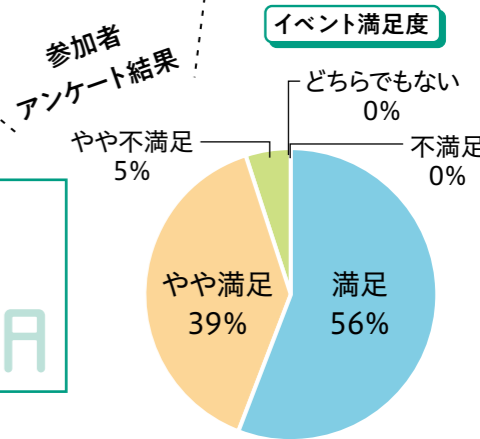
どんどん「見える化」を進め、市政の「わかる化」につなげます。YouTubeのような、低コストで簡単に情報が発信できる仕組みを活用するなど、これまでにない政治の改革が実現できると考えています。

Q 4年で政治の立て直しを完成するために、市民や職員には何を求められていますか？

固定観念の打破です。「前からやっているから、皆がやっているから」ではなく、「前からやっても、皆がやってもどうなのか？」という問題意識が必要です。自分自身や自分のまちはどうあるべきか、その意識を醸成していきたいです。

Q 教育に高い関心を持っている人が多いですが、教育現場に一番求めることは何ですか？

子どもを最優先にする姿勢です。保護者や教員の都合で、子どもに不利益が及ばないように意識の徹底が求められます。



良かった点

- ・事前に他の参加者の質問が把握できたので、市長の回答が分かりやすかった。
- ・市長と話す機会としてもいいイベント。
- ・アプリを利用するので匿名性があり発言しやすかった。

改善してほしい点

- ・もっとひとつの質問について深く議論できたら良かった。
- ・トピックごとに意見を入力できたら良かった。

その他の質問や詳細は市ホームページで確認できます。
<https://www.akitakata.jp/ja/shisei/section/chihouseusei/a170/>



圏地方創生推進課 まちづくり支援係 ☎お太助フォン42-2124